

ミュージアムコンサート

チェンバロの調べとともに、ひと足早いクリスマス気分を、すばらしい絵画とともに過ごしてみませんか。

開演日時 12月23日(水) ①午後1時30分から
②午後3時30分から

会場 市立美術博物館企画展示室
演奏者 大木和音さん(高崎市在住・チェンバロ奏者)
料金 観覧料のみで鑑賞できます。

●コンサート会場となる企画展示室では、「瑛九展 - 銅版画を中心に -」を12月19日(土)から平成22年1月11日(月)まで行います。



美術博物館からのお知らせ

12月4日(金)は、展示替えのため臨時休館となります。
12月5日(土)～平成22年2月21日(日)は、常設展示室の展示が「歴史・民俗」から「美術」に替わります。
12月27日(日)～平成22年1月4日(月)は、年末年始休館となります。

問い合わせ 美術博物館 (☎62-6200)



こうして同
年9月10日、
本省から葦原
会計局長・志
村書記官らが
製糸所へ来
て、開札に立

明治26年5月31日、富岡製糸所は7月中旬公売の広告を発表し、8月初旬に開札する方向が一応定められたが、実際にはこれが遅れぎみであった。同年9月になると、富岡製糸所の入札を希望する大勢の人びとが、富岡町を訪れるようになった。速水所長は、彼らの意思を訊ねると「単に利益を求めたい」とする者が多いことを知った。そこで、速水は製糸所の利害得失をじゅうぶんに説明すると、払い下げの意思を棄てて去る者が多かった。速水の行為は、富岡製糸所の払い下げを妨害しようとしたのではなく、真に製糸所の意義を貫きたい人のみを選抜することでもあった。

近代産業の夜明け 富岡の明治維新

84

ち会って入札価格を発表した。入札金額と入札者は次のようであった。

金12万1,460円	三井高保代	津田興二
金10万3,170円	滋賀県貴族議員	下郷伝平
金10万2,550円50銭	長野県平野村	林 国蔵
金10万2,050円	長野県飯田村	吉沢利八
金7万5,202円10銭	群馬県宮郷村	森村亮太

この時の政府の元札は10万5,000円であったが、開札の結果、一番高額であった三井高保が製糸所を落札したのである。ただし、繭倉庫の中には、まだ製糸されていない原料繭8万9千円が貯蔵されていたので、これを差し引くと、約5ヘクタールの土地、建物や器械器具類など、合計して4万1,460円という評価ということになる。三井家が入札に参加した大きな原因は、三井家の銀行部のリーダーであった中上川彦次郎という人が、「これからの日本の針路は銀行ではなく工業である」という意見を強く主張した結果であるが、政商であった三井家はやがて大財閥となつてさらに成長を遂げたのである。(今井幹夫)

富岡製糸場の歴史を紹介しています。過去の掲載をご覧になりたい場合は市長公室にお問い合わせください。

あなたの心を ことばにして みませんか

市民の文芸 応募要項

次の応募要項に沿って作品を投稿してください。

- 投稿できる作品の数
 - ①俳句の部 15句以内
 - ②川柳の部 15句以内
 - ③短歌の部 3首以内
 - ④漢詩の部 1編
 - ⑤詩(童謡歌詞)の部 1編
- 投稿方法
 - 投稿する部門名、氏名、住所、電話番号を明記し、はがき、封書、Eメール、ファクスで。
- 注意事項
 - ①ペンネームでの応募もできますが、本名や住所などの記載がない場合は掲載できません。
 - ②掲載作品は、選者により添削されている場合があります。
 - ③応募作品は返却できません。
 - ④毎月1日締め切り(必着)。

市民の文芸

漢詩

■ 漢詩
新秋即事
晚來爽氣喚涼時
切切蟲聲遠屋滋
風信過庭翻一葉
秋懷坐覺賦新詩

■ 俳句

■ 俳句
秋深しオレンジ色の通学路
秋の空見上げ大きく伸びてみる
月光や障子に映る猫の影
見えぬ掌に乗せ大文字草の大
見えぬ掌に乗せ大文字草の大
月光や障子に映る猫の影
秋の空見上げ大きく伸びてみる
秋深しオレンジ色の通学路

齋藤 清次 選

■ 漢詩
新秋即事 (七日市) 青柳 重雄
晚來の爽氣 涼を喚くの時
切々たる虫声 屋を這りて滋し
風信 庭に過りて一葉翻り
秋懷 坐るに覺えて新詩を賦す

■ 俳句

■ 俳句
秋深しオレンジ色の通学路
秋の空見上げ大きく伸びてみる
月光や障子に映る猫の影
見えぬ掌に乗せ大文字草の大
見えぬ掌に乗せ大文字草の大
月光や障子に映る猫の影
秋の空見上げ大きく伸びてみる
秋深しオレンジ色の通学路

高橋 洋一 選

■ 俳句
秋深しオレンジ色の通学路
秋の空見上げ大きく伸びてみる
月光や障子に映る猫の影
見えぬ掌に乗せ大文字草の大
見えぬ掌に乗せ大文字草の大
月光や障子に映る猫の影
秋の空見上げ大きく伸びてみる
秋深しオレンジ色の通学路

※11月号で白文と書き下し文が違っていたので、再掲します。

短歌

宮前しづこ 選

富士山の頂上に立ち万感の涙こらふる古希すぎし我
(下高尾) 金田てるじ
一年の無事を賜ひしお札焚く父母の眠れる菩提寺の庭
(七日市) 恩幣 森造
明けやらぬ庭にいづれば木犀の香り流るる霧の中より
(下丹生) 松本 久枝
赤や黄や橙色に染められし高原の木々に風渡りゆく
(上丹生) 高橋 恵子
秋深しかぶらのホールにピアノ弾く孫の姿に目を細めをり
(岡本) 宮下 英雄
三百年つづく獅子舞の笛の音を五線にのせたり共大生は
(下高尾) 小林 勝明
女生徒も交りて組立体操すピラミッドの形もつまく出来たり
(七日市) 飯塚有紀子
夏野菜のふるさとレシビの入賞に微笑む孫娘を新聞に見る
(七日市) 新井 逸子
人形展素材で優しい顔並び孫との会話聞こゆるごとし
(七日市) 宮 和子
鐘楼よりはるかに見ゆる稲倉黒滝山の楓色づく
(白岩) 金井 幸子

川柳

猛 選

真夜中に氷割る音遠慮がち
(宇田) 一の宮損徳
味方など要らぬ強さを持ち米寿
(富岡) 大河原富美
笑ったと家中の顔綻びる
(一ノ宮) 田島 悦子
あやしてた子供に今は笑われる
(一ノ宮) 大野 武夫
今日だけは主役になれた村祭り
(野上) 飯塚 邦武
三面鏡女仕上げて送り出す
(富岡) 黒沢 繁
大根の味噌汁温い旅帰り
(富岡) 田島八千代
収集場所カラスにとつてはレストラン
(一ノ宮) 大野 里子
夕餉時今日も秋刀魚と嘆く父
(富岡) 湯浅サチ子
包丁を研いで円満夫婦仲
(上高瀬) 峰岸十四男